

指導と評価の一体化を目指して 音楽

学習指導要領の総則では、「授業の改善」（指導）と「評価の改善」（評価）を一体的に充実させていくことの重要性が示されています。学習評価によって、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」を的確に捉えて、教師は指導の改善を図ること、児童生徒は自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。ここでは、1. 学習評価の進め方の手順、2. 指導と評価の計画の作成のポイントについて示します。

1. 学習評価の進め方の手順

(1) 題材の目標を作成

(2) 題材の評価規準を作成

(3) 「指導と評価の計画」を作成

授業を行う

(4) 観点ごとに総括する

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成する。

- (1)、(2)を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料(生徒の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

- (3)に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价(A、B、C)を行う。

<題材及び評価規準の例>

題材名 歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう。 (中学校第2学年)	内容のまとめり 〔第2学年及び第3学年〕 「A 表現」(1) 歌唱 及び〔共通事項〕(1)	
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。	思 「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
技 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。		

※「知識・技能」の観点については、「知識」と「技能」の評価場面や評価方法が異なることが考えられるため、評価規準の作成にあたっては、「知識」と「技能」を分けて設定しましょう。なお、「B鑑賞」の題材においては、「技能」の評価規準は設定をしません。

※学習評価については、日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、記録に残す評価は毎時間の授業ではなく、題材など内容のまとめりごとにそれぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが大切です。

2. 指導と評価の計画の作成のポイント

指導と評価の計画の例（中学校第2学年 歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう）

時間	◆ねらい・○学習活動	知・技	思	態
1	<p>◆「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。</p> <p>○「荒城の月」、「早春賦」の歌詞の内容に関心をもつ。</p> <p>○「荒城の月」、「早春賦」の音楽の特徴の相違点などに気付く。</p>			
2	<p>◆「荒城の月」の音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <p>○「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じする。</p> <p>○「荒城の月」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて歌う。</p> <p>○前時の学習を想起して、「早春賦」を歌う。</p>			
3	<p>◆「荒城の月」と対比しながら、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方やフレーズ）、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。</p> <p>○「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。</p> <p>○「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方やフレーズ）、強弱を知覚・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。</p>	<p>知</p> <p>ワークシート</p>	<p>思</p> <p>観察ワークシート</p>	
4	<p>◆創意工夫生かして「早春賦」を歌う。</p> <p>○創意工夫を生かした表現をするための歌い方を追求する。</p> <p>○思いや意図をもって「早春賦」を歌う。</p> <p>○題材における学習を振り返る。</p>	<p>技</p> <p>演奏（歌唱）</p>		<p>態</p> <p>観察ワークシート</p>

・「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、題材の学習内容等に関心もてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるのか、また、題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるのか等について、総括的に評価するようにしましょう。

※題材を通して、何を学ぶのかを明確にしましょう。

音楽科の学習では、「教材を学ぶ」のではなく、「教材を通して何を学ぶのか」が大切です。「児童生徒がこの題材を通して何を学ぶのか」を教師が明確にもっておくことで、「1. 学習評価の進め方の手順」で示した、「(1) 題材目標を作成」につながってきます。児童生徒が「この題材を通して、何を学んでいるのか」が分かりやすくなるためにも、教師は音楽を形づくっている要素を精選し、児童生徒がどんな音楽的な見方・考え方を働かせて、授業に取り組んでいくのかをイメージしながら題材を構想していくことが大切になってきます。題材構想をきちんと立てることで、指導と評価の計画も立てやすくなっていきます。

